



・2人の出会いは？

高校時代は深い関わりはなかったのですが、吹奏楽部の友達は多かったため、その友達から、とても素晴らしい音楽家がいて学生指揮者をされていると文佳さんのことを聞いていました。一度聴きたいと緑高祭の体育館での演奏を見に行った記憶があります。在学中は選択授業で多少会うものの、話すことも少なかったのですが、高校を卒業し、大学時代に文佳さんが私の大学に遊びに来てくれて、そこで意気投合したのがキッカケで、今につながっていると感じています。

・高校のころはどんな緑高生だったでしょうか？

入学当初から音楽の道に進みたいと思っていたため、生きていくために必要な勉強は緑高で学ぼうと思い、1年生2年生は真面目に勉強していました。とはいえ、今はほとんど抜け落ちてしまいました(笑)放課後は部活以外は、音楽の練習やライブを見に行くため、すぐに帰っていました。休憩時間も音楽が好きな友達と練習したり、授業中に楽典の勉強を内職していたり(先生、すみませんでした!)音楽漬けの毎日でした。けれど、その中でも好きな漫画を友達とシェアしたり、文化祭に本気で取り組んだり、数学の問題を解きながら卓球したり、音楽以外のことを考える時間が過ごせたことは、今となっては良かったと思います。また、どうしてもみんなにもジャズを聴いてほしいと、ジャズ好きの国語の先生に手伝っていただき、論文発表したこともありました(笑)

・部活は？

軽音楽部に所属していました。ジャズができるかと思っていて、入ってからロックの部だと知ったのですが、そのままドラムを叩いていました。

・ピアノを始めたのはいつ頃ですか？

私は、4歳の時にエレクトーンを始め、中学生の時にジャズと出会い、大学よりピアノに転向しました。

・3年の時に音楽Ⅲの授業があったそうですが、特別授業だったのですか？先生はだれ？

私は音楽選択だったので、その延長線上で受けましたが、完全に音大受験用の楽典とソルフェージュの授業だったため、受講者は4、5人だったと記憶しています。それでも、一般高校でこれだけ音楽を志す仲間がいたのは心強かったです。先生は山口一郎先生でした。

・音楽室はまだ北館 1 階東端でしたか？

そうだったと記憶しています。音楽室に隣接する小さい練習室が 2 つあり、アップライトピアノも置いてあったため休憩時間はよく練習しに行っていました。

・当時の緑高はどんな雰囲気だった？

私は両親も緑高出身だったので、両親から耳にしていた自由な校風に憧れて入学しました。入学して感じたのは、ただ自由なだけでなく、友達同士でも先生方と生徒という関係でも、信頼に基づく自由さなのだということでした。だからこそ、それぞれが「自分」をしっかり持てるし、その「自分」を絶対に否定しないで認めてくださる先生方ばかりでした。私の音大進学についても、本人が行きたいのならと、どの先生も初めからずっと見守ってくださっていました。卒業後も本当に幅広い業界で活躍する仲間の姿を見て、本当に私たち自身の興味や意欲をそのまま育んでくださる空間だったのだなと実感します。校舎はかなり古く、たまにトイレから悲鳴などが聞こえましたが(虫の大量発生など笑)、両親と同じ校舎で学べたのは私にとっては嬉しくもありました。

・音楽家を目指すきっかけは？

小さい頃は特に練習も好きではなかったのですが、小学 3、4 年生ごろに編曲や作曲の面白さに気づいたのが最初でした。当時、弾き間違いなどが多くて息苦しかった時に、即興で演奏できるジャズを教えてもらい「これなら間違いとか気にしなくてもいいんだ！」(実際はそんなこともないのですが笑)となったのがジャズの世界に入るきっかけでした。嫌なことがあっても音楽で昇華するという生活でしたので、逆に他の道はあまり考えたことがないように感じます。

・2 年に横浜でコンサートされたきっかけは？

文佳さんがフランスの仲間と演奏するための楽曲の作曲依頼をくださって、せっかく作ったので一緒に演奏したいねというのが最初でした。一度演奏してみると、音楽的バックグラウンドは全く違うはずなのに、音楽に対する感じ方や大切に思うことに多くの共通点があり、ますます一緒に音楽を作りたいと思い、今につながっています。運営面などでも、緑高にいた時に感じた安心感や居心地の良さがあり、いつも計画立てからとても楽しくやらせてもらっています。

・今年の抱負、予定は。

2024 年、2025 年とアルバムを出したのですが、今年は海外のアーティストともコラボしたアルバムをリリース予定です。そのリリースに合わせたツアーも予定しています。アルバムがたくさんの人の元に届きますように、そして何かを感じていただけますようにと願いながら、一つ一つのライブに、音楽に、丁寧に向き合っていきたいと思います。

・緑高の後輩へのメッセージをお願いします。

自分が心惹かれるものをどうか大事にしてほしいです。

他の人がなんと言おうと実現するのは自分です。

無茶だと言われても、無駄だと言われても、自分が本気でやりたくて、本気でそこに向かっていけば、不思議と同じ意志を持つ人や応援してくれる人に出会い、道は開けていきます。そして、そ

ここで得る感情は、他では絶対に得られないものです。

私もまだ道を模索する毎日ですが、高校生の中にはいつかやりたいけど「やりたい」と声に出すのも怖かったことを、今経験させてもらっています。

自分の心の中だけでもいいので、本当の自分を大切に持って、前進して行ってほしいと願っています。

そして、それを声に出せたら、仲間も背中を押してくれる人も、緑高には必ずいると信じています。

悔いのない日々を！